

硫黄島調査特別委員会速記録

平成24年3月9日（金曜日）午前11時開会

出席委員（7名）

委員長	一木重夫君	副委員長	片股敬昌君
委員	高橋研史君	委員	鯨江満君
委員	杉田一男君	委員	池田望君
委員	稲垣勇君		

委員外出席議員（1名）

議長	佐々木幸美君
----	--------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	石田和彦君
教育長	伊藤直樹君	総務課長	箭内浩彌君
総務課副参事	鈴木敏之君	総務課企画政策室長	湯村義夫君
総務課企画政策室副参事	柴垣佳久君	財政課長	今野満君
村民課長	斎藤実君	村民課副参事	村井達人君
医療課長	樋口博君	産業観光課長	渋谷正昭君
建設水道課長	増山一清君	建設水道課副参事	篠田千鶴男君
母島支所長	江尻康弘君	出納課長	菊池元弘君
教育課長	佐々木英樹君		

事務局職員出席者

事務局長	セーボレー孝君	書記	菊池ひろみ君
------	---------	----	--------

議事日程

日程第1 NLP（日米再編）について（経過説明等）

日程第2 遺骨帰還について（経過説明等）

日程第3 その他

日程第4 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから硫黄島調査特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前11時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

まず、議題に入る前に、委員長から執行部に一言申し上げます。

昨日の夕方、本会議終了後においても、本委員会の詳細な議題と資料が各委員に配付をされませんでした。また、執行部は、昨日の本会議終了後、翌朝にならないと資料を配付できないと議会事務局長に伝えてきました。執行部のこのような対応は、各委員が資料に対して十分な調査や熟考する時間を与えないため、本委員会の権能を著しく低下させます。さらに、昨日の各議員の解散まで、正副委員長に詳細な議題の中身や資料の提出等、そのような事前の説明が一切ありませんでした。このような対応は、本委員会を軽視していると受け取られるばかりではなく、本委員会と執行部との信頼関係を大きく損なうこととなります。

昨日の夕方、急遽、全委員に集まってもらい、委員懇談会を開催し、委員会としての対応を協議しました。その結果、全委員の総意として、執行部の一連の対応について抗議を申し入れます。また、詳細な議題と資料の提出が遅れた理由を伺います。さらに、少なくとも委員会開催の5日前までには、本委員会に執行部側の詳細な議題と資料を提示することを求めます。この件について、村長並びに総務課長の答弁を求めます。

村長、森下君。

○村長（森下一男君） ただいま委員長から抗議を受けまして、私は恥ずかしい思いでいっばいでございます。少なくとも委員会の開催に当たって、委員長と事前の打ち合わせがなされていないということにつきましては、そのような指導をしてきたつもりもございませんが、本当にお恥ずかしいことございまして、お詫びをいたすしか言葉が見つかりません。どういう事情で担当がそういうことにならなかったのかということは、担当が、この後、答弁をすることになりますが、今後こういうことの二度とないように指導を徹底してまいります。また、私も議会人として8年間席を置いたこともあり、議会の権能、また執行部

の権能ということについては、十分理解をしているつもりでございますので、その点は誤解なきようにしていただきたいのと同時に、指導を徹底してまいりますので、どうぞ今回のことについては、ご容赦のほど、よろしくお願いを申し上げます。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、箭内君。

○総務課長（箭内浩彌君） 総務課長といたしまして、資料が遅れたことにつきまして、大変申し訳なく思っております。

どうしてだと言われますと、全体的な調査の中で、どうしても遅れてしまったとしか言いようがありません。これは理由になりませんが、今後こういうことがないように事前にしっかりと日程調整をいたしまして、こういうことがないように次回から行いたいと思います。誠に申し訳ございませんでした。そういうことでの発言とさせていただきます。どうも申し訳ございませんでした。

○委員長（一木重夫君） この件については終了とさせていただきますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

今後、気をつけてください。

次に、2月23日に実施した南鳥島への行政視察について、委員長から一言お礼を述べさせていただきます。

村政発足以来、初めての南鳥島への行政視察を実現するに当たり、関係者の皆様にご協力、ご支援をいただきましたことに謝意をあらわします。特に、渡辺 周防衛副大臣をはじめとして、防衛省北関東防衛局の皆様、入間基地の航空自衛隊の皆様、南鳥島に駐留している海上自衛隊南鳥島航空派遣隊の皆様、気象庁や国土交通省の皆様には多大なご支援とご協力をいただき、心から謝意をあらわします。

以上です。

ほかの皆様からも、何かこの件についてございますか。

（「ありません」との声あり）

○委員長（一木重夫君） ありませんか。

◎NLP（日米再編）について

○委員長（一木重夫君） それでは、議題に入ります。

初めに、NLP並びに日米再編に関するこれまでの動きについてを議題といたします。

このことについて執行部から報告、説明を求めます。

総務課長、箭内君。

○総務課長（箭内浩彌君） 前定例会以降の経過についてご報告いたします。

まず1点目のNLP（日米再編を含む）についての経過でございますが、NLPについては、実績はございません。

2点目でございます。日米再編を含む経過の中で、村と防衛省の北関東防衛局との連絡会、第6回硫黄島に係る連絡会議を3月15日に開催する予定になってございます。議題につきましては、NLP（日米再編）についての経過ですとか、それから硫黄島の暫定使用等につきまして、それから北関東防衛局、それから村と東京都が行っております硫黄島関連事業等についての報告を行うということで、議会と旧島民の会につきましても、一応立ち会っていただくということになっておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告、説明について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） ございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎遺骨帰還について

○委員長（一木重夫君） 次に、遺骨帰還についてを議題といたします。

このことについて執行部から報告、説明を求めます。

総務課長、箭内君。

○総務課長（箭内浩彌君） 硫黄島民遺骨帰還事業でございますが、平成23年度から皆さん既にご案内のことかと思っておりますけれども、政府は特命チームをつくりまして、大々的に行うということではございましたが、3.11の東日本大震災への対応ですとか、また硫黄島への水

不足の関係で、なかなかそこができないということで、今年度は一応2回ほど実施となります。1回目につきましては、11月29日から12月7日、収容数が155柱、2回目でございますが、2月3日から2月14日で、収容数が189柱で、今年度収容総数は344柱でございます。この遺骨につきましては、2月15日に千鳥ヶ淵の戦没者墓苑におきまして遺骨の引渡式が行われ、今後、火葬が終わった後に、千鳥ヶ淵の戦没者墓苑のほうに納骨する予定になってございます。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告、説明について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） 経過については、よくわかりました。かなり成果が上がっているのだなという部分ではありますが、来年度の実施計画については、どのようになっているでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、箭内君。

○総務課長（箭内浩彌君） 政府の計画では、一応、硫黄島につきましては、3年間重点的に行うということで、まず1つは、アメリカにあります資料の収集と、その分析ということと、それから硫黄島を面で調査を行うと。一応、試掘調査を行って、遺骨があることがわかったならば、そこを集中的に遺骨収容を行うということになっています。本来は、平成23年度当初から遺骨の調査を行う予定でしたが、その後、なかなかできなかったということで、平成24年度につきましては、まず遺骨の調査を行って、試掘調査を行いまして、遺骨があるなしを判断し、もし遺骨が出た場合には、そこについて集中的に遺骨の収容作業を行うと聞いています。

また、先ほど言いましたアメリカのほうの資料でございますけれども、資料のほうにつきましても分析を行ってしまして、聞いたところによりますと、ここにたしか100埋めたとして、実際には50しか埋まっていない、発見されていないということでという、そういうことがあれば、50あるのだろうというようなことを現在分析していると聞いています。その分析結果も参考にしながら、試掘調査をするというふうに聞いてございます。現在のところ、試掘調査をこれから行うということで、試掘調査を行いまして、遺骨が発見されたらば、遺骨収容を行うというふうに聞いております。

ただし、滑走路西のほうには、まだ遺骨があることがわかっております。集団埋葬地であ

りますので、それにつきましては、今のところ、8月下旬くらいから、そこについては遺骨を収容したいというふうに聞いてございます。

○委員長（一木重夫君） 片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 発見されました遺骨は、皆さん身元が全員わからないということでしょうか。身元のわかった方というのは、靖国神社のほうへということも今までにあるのでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今までの中で、身元がはっきりというか、ご遺体が1体のまま、ほかのご遺体がなくて見つかった事例もございます。例えば遺品の万年筆に名前が書いてあったりとか、そういうこともございますが、ほとんどのご遺体はわかりませんで、千鳥ヶ淵に集団納骨堂があるんですが、そちらに納骨をさせていただいているというところが私の知り得るところでございます。

○委員長（一木重夫君） そのほかございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他事項

○委員長（一木重夫君） 次に、その他事項について執行部から報告、説明を求めます。

総務課長、箭内君。

○総務課長（箭内浩彌君） すみません。説明の前に、先ほどの片股委員のご質問でございませぬけれども、もしも名前とかわかった場合には、ご遺族のほうに遺骨を返すというようなことをしているということでございます。

では、説明いたします。

まず、無人機の試験飛行でございます。

昨年12月10日に実施いたしまして、試験飛行については成功してございます。これによりまして、一連の無人飛行機の試験につきましては、一応終了したというふうに聞いてございます。

2点目が硫黄島のエアークッション艇（LCAC）でございますが、その訓練でございます。

12月14日から12月16日に実施いたしました。

3番目でございます。村が持っています硫黄島旧島民平和祈念公園の管理事業でございます。

1月16日から20日まで実施いたしました。参加者は5名でございます。

今後でございますが、3月19日から3月23日に実施の予定ということで、今、調整をしてございます。

それから、4点目でございます。東京都主催によります硫黄島戦没者追悼式でございますが、1月25日に実施いたしました。参加者59名で、うち遺族が33名ございました。

それから、これもまた東京都が行っております硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参でございますが、これにつきましては、3月23日に実施の予定というふうに聞いてございます。

それから、6番目でございます。厚生労働省が主催いたします硫黄島の慰霊巡拝でございますが、これにつきましては、1回目が12月14日に実施いたしまして、参加者82名、うち遺族の方が67名でございます。

第2回目が3月1日に実施いたしまして、参加者65名、うち遺族の方が50名でございます。

なお、この参加者の輸送に当たりましては、民間機をチャーターして実施したというふうに聞いてございます。

7番目でございます。日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式、いわゆる日米合同慰霊祭でございますが、これにつきましても3月14日に実施の予定というふうに聞いてございます。日本側の実施主体が硫黄島協会、アメリカ側の実施主体が米国海兵隊の退役軍人会でございます。

また、これも、参加者の輸送に当たりましては、民間機をチャーターして実施というふうに聞いてございます。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告、説明について、質疑、意見のある委員は挙手をお願いします。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） 最後に説明を受けました日米合同慰霊祭ですか、村長とか議長には、案内とか来ているのでしょうか。

- 委員長（一木重夫君） 総務課長、箭内君。
- 総務課長（箭内浩彌君） 日本側の実施主体、硫黄島協会のほうから案内状をいただいております。
- 委員長（一木重夫君） 池田 望委員。
- 委員（池田 望君） 村長、参加されますか。
- 委員長（一木重夫君） 村長、森下君。
- 村長（森下一男君） 日程が議会との間にありまして、ご丁重にその旨をお伝えしまして、お断りをしたところでございます。
- 委員長（一木重夫君） 池田 望委員。
- 委員（池田 望君） その他の事項で説明されたことではないのですが、硫黄島のほうに議会として視察をさせてもらったのは、後のほうがいいの。
- 委員長（一木重夫君） そうですね。その他のその他事項で。
片股敬昌副委員長。
- 副委員長（片股敬昌君） 日米合同慰霊祭というのは、昔、お孫さんとかな、一緒に参加した退役軍人会の方がいまして、アメリカ大統領への手紙ということで、その作文がコンクールで賞をいただいたということで、大変話題になったことがございました。本当に歴史的なことだと思います。かつて戦った日米の軍人がともにそこに集結するわけですので、私たちも、本当にこういうことに関して、本来ならもっと早くから情報を欲しかったというのが正直なところですよ。こういった内容、またどういふふうに行われたのかということについて、詳しくまた報告いただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。
- 委員長（一木重夫君） その他ございませんか。1から7までの範囲でございませんか。
(発言する者なし)
- 委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。
(「異議なし」との声あり)
- 委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他

- 委員長（一木重夫君） それでは、その他のまたその他事項で何かございますか。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） 1月に議会が防衛省の支援を受けて、硫黄島を視察させていただきましたが、そのときにちょっと感じたのですが、また随分隆起をしております、設置されていた釜岩のところの港が、もう海から上がってしまっているのですね。これから6月にまた硫黄島の墓参とか、いろいろなことがあると思いますが、ブイのことも心配だし、それから同様のよう、これから村主催の墓参をやっていけるのかなということを考えておりましたので、村としてどのように考えてられるか、どうぞよろしくお願いします。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） その問題は、まず見ていただくとわかりますように、せっかく造った港は、隆起をするのと砂の隆起によって、ほとんど埋まっていると。いろいろな原因はあるようです。と申しますのも、そういうことが気になっておりましたので、私も折に触れ、北関東防衛局の皆さんと話をするときには、何とか新しい港等ができないのかねというような話の中で、ここ数年は荷役の関係、仮設の突堤を造ってやっているというようなことですが、それも、造っては、また必要がなくなると壊しというようなことなので、抜本的な有効な方法はないのかなというふうなことは話はさせていただいているのですが、何せご指摘のとおり、隆起をしているということで、どういう形がいいのかということは、なかなか現実的な方策が見出せないというのが本音のところでございます。

漁師の方で、硫黄島ですとやはり1週間ぐらい泊りがけで行くようですので、やはりブイについても、そういう要望が出ているやに聞いておりますので、まずブイだとか、そういうことについては、早急な手だてが可能ではあると思っています。本当に港については、うちのおがさわら丸で今やっている墓参の関係もありまして、何とか恒久的に利用できるようなものができればなというところは思っております、折に触れ、そういうまたお話は、今後もさせていきたいと思っております。

○委員長（一木重夫君） 池田 望委員。

○委員（池田 望君） それでは、来年度の6月に実施予定である訪島事業については、できるということでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 従来の方でやるつもりであります。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。硫黄島の視察、また南鳥島への視察でも構いません。

鯨江 満委員。

○委員（鯨江 満君） 2件ございます。後先の関係があるので、とりあえずは南鳥島に防衛省の協力で行けたということで、村長と議長を除く全14名、防衛省も含めまして行ってきて、見聞が広がって、この島がどのように将来的に利用できるのかなというようなことを含めて、実は20日に1回目のフライトが天候の関係でできなかったということで、実は村長と議長が23日には公務があつて行けなかったということなので、このまま本委員会でこれを取り扱っていくのであれば、委員長名でもって、村長、議長が何らかの形で行けるように、防衛省のほうに要請をしていただきたいと思います。これが1件です。

もう1件は、先ほどの総務委員会のほうの高橋委員のほうの沖ノ鳥島のほうの話も出てきたということで、にわかに硫黄島を中心に、遠隔の小笠原の離島ということでの硫黄島委員会の中での取り扱いというふうに今後していくのか、新たに設けるのか、その辺のところを委員長のほうで方向性を出していただいて、私は、どこかに組み入れていかなければいけないんじゃないかなと、総務委員会に持っていくものなのか、ちょっとその辺をほかの委員さんのご意見をお聞きして、できればこの委員会の中で決めていただくほうがいいと思うのです。ということは、内外に、やはり小笠原の領土だよということを知らしめるということ、それで、それは、いずれは経済水域になっていってほしいということも含めまして、村議会として取り上げて、きちっとした形でやっているということにしたいと思いますので、皆さんにちょっと諮っていただきたいと思います。

以上2件です。

○委員長（一木重夫君） まず、最初の1点目ですけれども、南鳥島の視察で、村長並びに議長が公務により参加できなかったということで、2人に対してはいま一度の視察を要望をしていくのかどうかというお話だと思うのですが、それについては、皆さん、ご意見はどうですか。ほかの委員さん。

村長は、村長としてのお考えがまずあると思いますので、その件について。

村長、森下君。

○村長（森下一男君） 本当に残念ながら20日がだめで、23日、予備日が行けたということは、本当によかったなと思います。念願の機会、2日ともだめになって、全然皆さん行けなかったということになったら、本当にあれでしたので、その点は。

今ご質問いただいた件ですが、議長はじめ皆さんと防衛省の渡辺副大臣にお邪魔しましたときに、残念ながら私と議長は行けないかもしれないので、そのときには、ぜひとも次の

機会をよろしく願いますという願いをした経緯がございます。そのときは、副大臣のほうからは、了と、わかったよというお返事もいただいておりますので、私としては、そういう意思表示を既に行っているというふうにご理解をいただければと思います。

○委員長（一木重夫君） 今の鯉江委員と村長の発言に対して、ご意見はありますか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） これは当然行政区域であるから、今、村長の答弁にもあったように、やはり必要なものだと思いますので、それは今後村長、議長が行けるような形で、私は進めるべきだと思う。その中で、正副委員長が、それは北関東防衛局も防衛省も含めて、そして村長、議長とよく打ち合わせをしながら、正副委員長の責任において、ぜひそれを実施していただきたい。

○委員長（一木重夫君） 南鳥島の視察の件については、その他ご意見はありませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） ご意見がないようですので、委員長としましては、杉田委員が言われたように、執行部と、あと委員の皆様との調整を図りながら、防衛省に対して、また再度の支援を要請していくという、そういう方向性で話していきたいと思います。この件については、正副委員長に一任をしていただければと思いますけれども、いかがですか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

次の鯉江委員からの提案の、沖ノ鳥島を本委員会で議題としてとりあげるといいますか、そういうことではないんですか。

鯉江 満委員。

○委員（鯉江 満君） 硫黄島が余りにも歴史的な中でも、まだ1万柱というか、みたまで遺骨収容も進展はしているけれどもという状況なので、沖ノ鳥島と南鳥島では、硫黄島と比較した場合には、今かなりギャップがあるとは思いますが、小笠原にとっては、その3つの場所というか、島というのは、1つではないだろうかと、遠隔離島というような枠組みになるのではないかなど。でも、このままやはり、現実には防衛省の力をかりなければ、そういうところに視察すら行けないというのが現状なので、硫黄島の特別委員会の中で、今後も沖ノ鳥島も南鳥島も組み入れてやるのか、そういうことを決めていただきたいと。私の記憶では、過去、そういうのは決まっていなと思うんですね。位置づけの問題ですね。だから、どこの委員会で取り扱っていくんですかということですね。それをちょっと

決めていただかないと、硫黄島はいいのですが、あと2つの沖ノ鳥島と南鳥島は、どうい
うところでの話し合いをしていくのか、だれが情報収集をして、それをどこの委員会で取
り扱っていくのですかということを決めてくださいということです。

○委員長（一木重夫君） わかりました。

ただいまの鯉江委員の意見で何かございますか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 先ほど総務委員会で、その他事項ということで、新たな議案というこ
とで高橋委員から出ましたけれども、考えてみれば、私たちも、執行部も議会も、沖ノ鳥
島の身近な大切さというのは、認識していない部分が多かったと私は思っています。そう
いう意味で、私も、先ほど総務委員会から出たので、言いませんでしたけれども、本来、
南鳥島も含めて経済水域3島に関しては、やはりどこかの委員会で継続的にやるのが私は
いいと思っていました。ただ、総務委員会という中で出ましたので、私の中では総務委員
会でいいかなという、ちょっと疑問文がありました。そういう意味で、私の提案は、継続
的にやる必要もあると思います。その中で、総務委員会の正副委員長、そして硫黄島特別
委員会の正副委員長、どちらで取り扱うのがいいのか、私は硫黄島関係でやるのがいいと
いう気もしますけれども、その辺の取り扱いをぜひ両方の正副委員長で協議しながら進め
ていただきたいと私は提案します。

○委員長（一木重夫君） 池田 望委員。

○委員（池田 望君） この委員会の性格上、南鳥島と沖ノ鳥島の事案を恒常的に話し合うと
いうのは、何かそぐわないというふうに私は思っています。今ある委員会であれば、総務
委員会の議案の中に毎回継続審議として入れていただく、これが何かとてもおさまりやす
い議論になろうかと思しますので、よろしかったら、総務委員会で取り扱っていただく、
このようにしていただきたいと思います。

○委員長（一木重夫君） その他ご意見ありますか。

佐々木幸美議長。

○議長（佐々木幸美君） 今、池田委員のほうから話がありましたように、これは、いろいろ
情報の出どころが、ちょっと硫黄島とは全く別なところでありますので、硫黄島の場合は、
遺骨問題、防衛問題、そういう福祉関係もありますので、これはやはり継続的に総務委員
会でやっていただきたいと私は思います。

それから、南鳥島の件ですけれども、20日は行けなかったのですけれども、私と村長が乗

らなければ、必ず23日に行けるということで、本当におめでとうございました。また、ぜひよろしくをお願いします。

○委員長（一木重夫君） その他ご意見はありますか。今の件ではございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） そうしますと、今のご意見をまとめますと、沖ノ鳥島については、総務委員会ということになるかと思えます。そのような扱いでよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

その他事項で、ほかにございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） ございませんね。

それでは、もう質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りをします。

お手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることに決定いたしました。

◎閉会の宣告

○委員長（一木重夫君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして硫黄島調査特別委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

(午前11時35分)